

第1回いばらき県央地域連携中枢都市圏ビジョン懇談会意見等一覧（8月31日発言分）

No.	分類	意見等	回答
1	茨城県央地域 定住自立圏共 生ビジョンの 成果 資料3 参考資料3 (P8)	<ul style="list-style-type: none"> 連携中枢都市圏ビジョンは、定住自立圏からの変更点として、より広範な分野での取組が可能となったとのことだが、範囲の広がりだけでなく、定住自立圏共生ビジョンの取組等について改善点や問題点をどう評価し、連携中枢都市圏ビジョンにどう取り入れどのように変わったのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 定住自立圏の事業の具体的な修正等については、これまでも、定住自立圏共生ビジョン懇談会において委員の皆様からの意見をいただきながら、毎年度評価を行い、見直しを行ってきたところである。 これまでの議論の中でも事業そのものの有効性について認められてきたこと、そして、一定の成果をあげてきたことから、位置付けの構成や名称の修正を加えながら、すべての事業について継続することとしたものである。 今後も、新規事業も含め、委員の皆様の見解を踏まえながら、事業を進めていきたい。
2	計画期間 資料4 第1章4 (P2)	<ul style="list-style-type: none"> ビジョンの計画期間について、5年間で行えるものと10年20年かけて進めていくべきものがあると思うが、当ビジョンは何年間の計画を予定しているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 計画期間については国の要綱に基づき5年間としている。 今回の位置付けをしている事業の中には、現段階では検討として位置付け、今後、協議会等の議論の中で具体化していくものも含んでいる。これらの事業で5年を超える期間が必要なものについては、次期のビジョンに位置付け、実施していくことを想定している。

No.	分類	意見等	回答
3	産業構造 資料4 第2章4 (P24)	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの産業において、就業者数及び事業所数が減少しているが、第二次産業及び第三次産業は販売額が増えており生産性が増加している理由を伺いたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 商業販売額については、ロードサイドショップ、ショッピングモールにおける売上増加の影響と考えている。工業販売額については、圏域内の工業団地への大規模な事業所の新規立地等によるものと考えられ、これまでの企業誘致の成果があったのではないかと認識している。 一方で、中小事業者を含めた既存の事業所の持続的発展や事業承継にも力をいれていかなければならないことから、事業①に「事業者の経営力強化事業」を位置付けたところである。
4	将来像 資料4 第3章1 (P44)	<ul style="list-style-type: none"> 目指すべき将来像について、「世界につながるいばらきど真ん中」としているが、事業の概要だけをみると、国際的なつながりがあるのかわかりにくいいため、もう少しコンセプトにあわせた事業のあり方を検討いただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 県央地域には茨城空港や茨城港など、世界につながるインフラがあり、将来的にこれらのインフラを活用した事業の実施を念頭にいれながら推進していきたいと考えているため、「世界につながる」という表現を将来像に加えたところである。今後、事業を推進する中で、中・長期的な視点を持ちながら、将来像の実現に向けた施策も追加・検討していく。 観光の分野におけるインバウンド観光の推進をはじめ、産業の振興による海外輸出、さらには、芸術文化の分野での海外への発信などを想定している。
5	KPI 資料4 第4章2	<ul style="list-style-type: none"> KPIについて、KPIと事業が一对一で対応しているものと、そうでないものがあり、KPIと個別事業との関連性がわかりにくい。 	<ul style="list-style-type: none"> KPIと個別事業との関連性については、資料8を参照してください。 懇談会後にも、KPIを細かく設定してはどの意見が複数あったことから、項目の見直しを図ることとする。

No.	分類	意見等	回答
6		<ul style="list-style-type: none"> ・地域経済の活性化に係る KPI「総生産」について、付加価値ベースでの記載だと目標の水準が捉えにくいいため、成長率ベースで記載していただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・成長率（伸び率 1年当たり約 1.3%）について併記することとする。
7	<p>成果指標 (KPI) (1)地域経済の活性化</p> <p>資料4 第4章2 (P52)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・KPIについて、事業No.⑤「誘客と観光消費促進事業」に当たる指標は、観光交流人口だと思うが、観光消費額を KPI として盛り込むのも良いと考えるがいかがか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光消費額については、地域経済の活性化を推進する取組の指標にふさわしいものであり、9市町村でも検討してきた。 ・しかしながら、市町村や圏域を単位とした消費額の数値について、現状では個別の単価を算出することが困難なため、今回については、観光消費額の設定は見送ったものである。 ・観光交流人口については、事業④「戦略的プロモーション事業」、事業⑤「誘客と観光消費促進事業」を推進することで、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により落ち込んでしまっている観光客をコロナ前の水準まで回復させることとして設定した。
8	<p>具体的取組 事業No.4ほか</p> <p>資料4 第4章2 (P55他)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人口動態について、日本社会は人口減少を迎えている中で、ビジョンには海外からの移住や観光客の入込が触れられていないが、日本全体として海外からのそれらの人材というのは産業の活性化に非常に必要だと考える。産業振興や観光の事業等について、もう少し海外からの流入を念頭におくべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ・御意見のとおり、インバウンドに関する施策は重要と考えている。このため、今回提案している事業④「戦略的観光プロモーション事業」において、インバウンド観光による誘客も意識し、取組を展開していくことを想定しており、コロナの状況を踏まえながら、積極的に取り組んでいく。 ・また、産業振興の分野において、海外からの人材活用は有効な方策と考えられるため、国や県、関係機関との連携した取組について、各施策を進める中で検討していく。

No.	分類	意見等	回答
9	具体的取組 事業⑩ ICT 資料4 第4章2 (P60)	<ul style="list-style-type: none"> ICTによるまちづくり推進事業について、社会実験などの実証実験を行うには、5Gの可能な域を水戸市内や中心街に作る、あるいはWi-Fi環境をさらに進め、どこでもWi-Fiに繋がるなど、どのくらい通信インフラを整備することで生活が便利になるのかということを実証しながら進めるべきと考えるが、計画には盛り込めないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTによるまちづくり推進事業において、地域課題を把握し、その課題の解決に、デジタル技術を効果的に活用することとしたところである。 地域課題の解決に向けた、調査研究、社会実験等を推進する中で、ご指摘も踏まえ、5G、Wi-Fi環境等の通信インフラの整備についても検討し、その効果検証を進めるなど、まちづくりにおけるデジタル技術の効果的な活用を図っていきたい。